

## 研究テーマ

E S D 地球にやさしい子どもを育む幼児教育 「のびのびと遊ぶ心豊かな子どもの育成」  
～人への思いやり 環境への思いやりをもつ子どもを育てるための援助の工夫～

### 1 テーマについて

本園では「人への思いやり 環境への思いやりをもつ子どもを育てる」という研究テーマのもとこれまで研究を進めてきた。昨年度は振り返りに重点を置き、教師の援助や環境構成の在り方を探っていった結果、子どもたちは遊びをよりよくするために思いや考えを出し合い、いろいろなこと、ものに主体的に関わりながら遊びを深めていくことができた。また、課題解決に向け友達の意見にも耳を傾けて折り合いをつけたり相手の立場になって考えたりしたことがコミュニケーション能力を高めると共に、思いやりの姿にもつながった。つまり、子どもたちが主体的に関わることができる環境の構成や教師の援助を行えば遊びが充実し、友達や自然との関わりを通して思いやりをもつ子どもが育つということがわかった。

数年間このテーマでの研究に取り組み、幼児理解や遊びを通しての指導など保育の基礎基本を理解することの重要性を感じた。そこで、今年度は改めてその基礎基本に立ち返り保育の充実を図りながら研究を深めていきたいと考え、幼稚園教育要領「教師の役割」を再認識することを目的とした研究を進めていくこととした。

#### (1) 「人への思いやり」とは

本園では人に対する思いやりを「相手の立場に立って考え、相手の気持ちを感じとり、相手に共感できること」と捉える。そのような姿を育むためには、子どもたちが安心して生活できる基盤を作り、自分を出しながら思う存分に遊びに取り組む中で、満足感をもてるようにすることが大事である。子どもと教師との信頼関係が重要であり、教師が一人一人を大切にしたい思いやりのあふれる関わりをすることは、子どもの人に対する思いやりを育むために重要であると考えます。

#### (2) 「環境への思いやり」とは

環境に対する思いやりは「園内外における身近な物（遊具、用具など）や自然環境に触れて遊ぶ中で愛着をもち、大切にしようという気持ちをもって行動すること」と捉える。子どもたちがこのような思いをもって行動するためには、それらに関わり好奇心をもって存分に遊びこみ楽しい経験をすることや、地域に出掛け見たり触れたりする中での感動体験が大切だと考える。環境に関わって遊ぶ中で親しみや感謝の気持ちをもったり周囲の人や環境への接し方を見て学び、自分の関わり方も考えたりすることができるようになる。子どもたちの身近にいる私たち教師が、物や自然などの環境に愛着をもち、大切にすることを環境を大切にしようとする子どもの心を育てるのだと考える。

### 2 めざす子どもの姿

3歳児： 身近な人や環境に興味や関心をもち、見たり触れたりすることを楽しむ。

4歳児： 友達と関わりながら様々な感情を共感しあい、言葉で伝える。

身近な自然や物と関わって遊ぶ中で親しみの気持ちをもつ。

5歳児： いろいろな考え方があることを知り、自分も相手も大事にしようとする。

自然の美しさや不思議さに気付き、好奇心や探求心をもつ。

### 3 研究の仮説

人への思いやりや環境への思いやりをもつ子どもが育つための援助を工夫すれば、地球にやさしい子どもを育むことができるだろう。

### 4 研究の視点

視点1 人に思いやりをもって接することができるようになるための環境と援助の工夫

視点2 身の回りのものや自然等、環境への思いやりをもつ子どもを育てるための活動と援助の工夫

視点3 保護者との連携の工夫

### 5 研究の方法

#### ○ 教師間の共通理解

- ・幼稚園教育要領「教師の役割」を共通理解し実践を行う。
- ・教師間で様々な子どもに関わり、多様な視点から見取りを行う。

#### ○ 保育記録の工夫

- ・子ども自身の言葉や行動、遊びの様子などを教師がそれぞれに自分に合った方法で記録する。
- ・記録を基に日々の保育の振り返りを行ない、常に指導計画の改善を図る。

#### ○ 地球にやさしい子どもを育てるための工夫

「隈庄幼版 SDGS 17 の目標」と「SDGS に関する絵本と動画の一覧表」を活用、継続する。

- ・掲示物や絵本、動画視聴（タブレットの活用）での啓発を継続する。
- ・整理整頓された美しい環境作りと教材の充実を図る。
- ・教師が、水や電気、紙などを大切に扱ったり、まだ使えるものは再利用したりしてモデルとなる。
- ・飼育、栽培物の世話を通して生き物のいのちの大切さに気付かせていく。

#### ○ 一人一人の子どもの育ちを明確にするために

- ・エピソード研修を学期ごとに行い、子どもの育ちと見取りを学び合う。
- ・各クラスの研究保育に取り組み、講師を招聘し研究の充実を図る。

#### ○ 後援会や地域と連携した取り組み

- ・後援会活動「アルミ缶回収」と連携した「SDGS の日」また、保護者「くまっこの日」の取り組みを継続する。
- ・小学校との交流活動に取り組み、幼小の教師間でも子どもの育ちを共有する。
- ・小学校授業研究会モデル園として研究の実践動画を制作し、小中学校へ幼児教育の発信を行う。

#### ○ 1年間の実践を基に研究の成果と課題を明確にし、職員間で共通理解する。